

ページ	正	誤																																																
P76 表1-1 平成18年 測量士 三角No.1 問 C	表1-1 <table border="1"> <tr><td>ϕ_1</td><td>300° 00' 00"</td></tr> <tr><td>ϕ_2</td><td>60° 00' 00"</td></tr> <tr><td>e_1</td><td>2.000m</td></tr> <tr><td>e_2</td><td>3.000m</td></tr> <tr><td>T'</td><td>90° 00' 00"</td></tr> </table>	ϕ_1	300° 00' 00"	ϕ_2	60° 00' 00"	e_1	2.000m	e_2	3.000m	T'	90° 00' 00"	表1-1 <table border="1"> <tr><td>ϕ_1</td><td>300° 00' 00"</td></tr> <tr><td>ϕ_2</td><td>60° 00' 00"</td></tr> <tr><td>e_1</td><td>2.000m</td></tr> <tr><td>e_2</td><td>3.000m</td></tr> <tr><td>T'</td><td>90° 00' 00"</td></tr> </table>	ϕ_1	300° 00' 00"	ϕ_2	60° 00' 00"	e_1	2.000m	e_2	3.000m	T'	90° 00' 00"																												
ϕ_1	300° 00' 00"																																																	
ϕ_2	60° 00' 00"																																																	
e_1	2.000m																																																	
e_2	3.000m																																																	
T'	90° 00' 00"																																																	
ϕ_1	300° 00' 00"																																																	
ϕ_2	60° 00' 00"																																																	
e_1	2.000m																																																	
e_2	3.000m																																																	
T'	90° 00' 00"																																																	
P147 下から7行目 ～ P148 平成17年 測量士 水準No.3 問 D 解説 (記号省略)	標尺補正を施したC→B区間の観測高低差 $-21.5601 + \{+5 + (20-20) \times 1.0\} \times -21.5601 = -21.5602$ 水準点Bから水準点Cの標高 $141.6941 + 21.5602 = 163.2543$ 水準点Cの平均標高 $163 + \frac{0.2531 \times 5 + 0.2543 \times 10}{15} = 163 + 0.2539 = 163.2539 \text{ m}$	標尺補正を施したC→B区間の観測高低差 $-21.5601 + \{+5 + (20-20) \times 1.0\} \times -20.5601 = -21.5601$ 水準点Bから水準点Cの標高 $141.6941 + 21.5601 = 163.2542$ 水準点Cの平均標高 $163 + \frac{0.2531 \times 5 + 0.2542 \times 10}{15} = 163 + 0.2538 = 141.2538 \text{ m}$																																																
P303 下から11行目 平成19年 測量士 地図編集No.6 問 A 解説	1. 経線は、・・・	経線は、・・・																																																
P303 下から9行目 平成19年 測量士 地図編集No.6 問 A 解説	2. 円錐の・・・	円錐の・・・																																																
P303 下から2行目 平成19年 測量士 地図編集No.6 問 A 解説	3. 地球と・・・	地球と・・・																																																
P303 最後の行 平成19年 測量士 地図編集No.6 問 A 解説	4. 図で示すと図士-1のとおりである。4は正しい。	追加																																																
P328 上から13行目 平成16年 測量士 応用No.7 問 C 解説	$= 4.95 \text{ m}^2 \times$	$= 4.95 \text{ m}^2 \times$																																																
P350 上から14行目 平成19年 測量士 応用No.7 問 A 解説	$L = 150^2 / 200 = 112.5 \text{ m}$	$L = 150 / 200 = 1,125 \text{ m}$																																																
P350 上から16行目 平成19年 測量士 応用No.7 問 A 解説	$L_c = R \alpha^\circ / \rho^\circ$	$L = R \alpha^\circ / \rho^\circ \dots$																																																
P350 上から19行目 平成19年 測量士 応用No.7 問 A 解説	$L_c = 200 \times 27.8^\circ \dots$	$L = 200 \times 27.8^\circ \dots$																																																
P351 上から4行目 平成19年 測量士 応用No.7 問 B	1. ...隣接する公園間で	1. ...隣接する公園間で																																																
P351 上から5行目 平成19年 測量士 応用No.7 問 B	...確保するために公園を	...確保するために公園を																																																
P356 上から16行目 平成19年 測量士 応用No.7 問 D 解説	3. 定期横断測量は、・・・	3. 定期縦断測量は、・・・																																																
P427 下から3行目 ～ P428 平成16年 測量士 選択No.2 問 D 解説	①三次元ベクトル閉合差の計算 <table border="1"> <tr><th>セッション</th><th>自・観測点</th><th>至・観測点</th><th>ΔN</th><th>ΔE</th><th>ΔU</th></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td></td><td>0.017</td><td>0.011</td><td>0.080</td></tr> <tr><td>許容範囲</td><td></td><td></td><td>0.040</td><td>0.040</td><td>0.060</td></tr> </table>	セッション	自・観測点	至・観測点	ΔN	ΔE	ΔU	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	計			0.017	0.011	0.080	許容範囲			0.040	0.040	0.060	①r次元ベクトル閉合差の計算 <table border="1"> <tr><th>セッション</th><th>自・観測点</th><th>至・観測点</th><th>ΔN</th><th>ΔE</th><th>ΔU</th></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td></td><td>0.017</td><td>0.011</td><td>0.152</td></tr> <tr><td>許容範囲</td><td></td><td></td><td>0.040</td><td>0.040</td><td>0.060</td></tr> </table>	セッション	自・観測点	至・観測点	ΔN	ΔE	ΔU	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	計			0.017	0.011	0.152	許容範囲			0.040	0.040	0.060
セッション	自・観測点	至・観測点	ΔN	ΔE	ΔU																																													
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮																																													
計			0.017	0.011	0.080																																													
許容範囲			0.040	0.040	0.060																																													
セッション	自・観測点	至・観測点	ΔN	ΔE	ΔU																																													
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮																																													
計			0.017	0.011	0.152																																													
許容範囲			0.040	0.040	0.060																																													
	②三次元ベクトル重複の計算 <table border="1"> <tr><th>セッション</th><th>自・観測点</th><th>至・観測点</th><th>ΔN</th><th>ΔE</th><th>ΔU</th></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr><td>較差</td><td></td><td></td><td>-0.006</td><td>-0.008</td><td>-0.020</td></tr> <tr><td>許容範囲</td><td></td><td></td><td>0.020</td><td>0.020</td><td>0.030</td></tr> </table>	セッション	自・観測点	至・観測点	ΔN	ΔE	ΔU	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	較差			-0.006	-0.008	-0.020	許容範囲			0.020	0.020	0.030	②三次元ベクトル重複の計算 <table border="1"> <tr><th>セッション</th><th>自・観測点</th><th>至・観測点</th><th>ΔN</th><th>ΔE</th><th>ΔU</th></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr><td>較差</td><td></td><td></td><td>-0.006</td><td>-0.008</td><td>-0.020</td></tr> <tr><td>許容範囲</td><td>0.020</td><td>0.020</td><td>0.030</td><td></td><td></td></tr> </table>	セッション	自・観測点	至・観測点	ΔN	ΔE	ΔU	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	較差			-0.006	-0.008	-0.020	許容範囲	0.020	0.020	0.030		
セッション	自・観測点	至・観測点	ΔN	ΔE	ΔU																																													
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮																																													
較差			-0.006	-0.008	-0.020																																													
許容範囲			0.020	0.020	0.030																																													
セッション	自・観測点	至・観測点	ΔN	ΔE	ΔU																																													
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮																																													
較差			-0.006	-0.008	-0.020																																													
許容範囲	0.020	0.020	0.030																																															

ページ	正	誤																		
P672 下から 9 行目 ～7 行目 平成 17 年 測量士補 多角No.2 問 A 解説	1. . . . <u>致心誤差</u> がある。機械等の構造上の誤差は 気象データを使って補正する。 <u>致心誤差</u> は, . . .	1. . . . <u>置心誤差</u> がある。機械等の構造上の誤差は 気象データを使って補正する。 <u>置心誤差</u> は, . . .																		
P673 上から 6 行目 ～7 行目 平成 17 年 測量士補 多角No.2 問 A 解説	3. するものではない。 <u>よって、測定距離の長短にかかわらず一定である</u> 。3 は正しい。	3. するものではない。 <u>測定距離に機械定数を加えないと正しい距離にする</u> 。3 は正しい。																		
P703 下から 8 行目 平成 16 年 測量士補 水準No.3 問 A 解説	レベル B 点の高低差 = $b_2 - a_2 = 1.475 - 1.436 = 0.039\text{m}$	レベル B 点の高低差 = $b_2 - a_2 = 1.475 - 1.436 = 1.039\text{m}$																		
P711 上から 3 行目 平成 17 年 測量士補 水準No.3 問 B 解説	値を $b_0 = b_2 - 1$ とすると,	値を $b_0 = b_2 - 1$ とすると, <u>図補-7</u> から																		
P863 表 7-1 平成 17 年 測量士補 応用No.7 問 D	<table border="1"> <tr> <td></td> <td><u>断面①</u></td> <td><u>断面②</u></td> <td><u>断面③</u></td> </tr> <tr> <td>平均流速</td> <td>0.8m/s</td> <td>1.5m/s</td> <td>1.0m/s</td> </tr> </table>		<u>断面①</u>	<u>断面②</u>	<u>断面③</u>	平均流速	0.8m/s	1.5m/s	1.0m/s	<table border="1"> <tr> <td></td> <td><u>断面①</u></td> <td><u>断面②</u></td> <td><u>断面③</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均流速</td> <td>0.8m/s</td> <td>1.5m/s</td> <td>1.0m/s</td> <td>1.0m/s</td> </tr> </table>		<u>断面①</u>	<u>断面②</u>	<u>断面③</u>		平均流速	0.8m/s	1.5m/s	1.0m/s	1.0m/s
	<u>断面①</u>	<u>断面②</u>	<u>断面③</u>																	
平均流速	0.8m/s	1.5m/s	1.0m/s																	
	<u>断面①</u>	<u>断面②</u>	<u>断面③</u>																	
平均流速	0.8m/s	1.5m/s	1.0m/s	1.0m/s																
P863 下から 4 行目 平成 17 年 測量士補 応用No.7 問 D 解説	河川のある地点の流量とは, . . . 横断面を 1 秒間に通過する水の量をいい <u>m^3/s</u> の単位で表されている。	河川のある地点の流量とは, . . . 横断面を 1 秒間に通過する水の量をいい <u>m/s</u> の単位で表されている。																		